

2011年度町田市版事業仕分け 事業仕分け結果を踏まえた市の対応状況(2016年5月末時点)

実施年度	整理番号	対象施設	所管課	改善内容	改善時期	改善が必要と考える背景や考え、実施方法	対応状況	改善内容や進捗状況
2011	1	保育園	子ども生活部 子育て支援課	待機児童対策としては、今回新たに策定した新・保育サービス3ヵ年計画に基づき、引き続き保育所を整備していきます。	2015年4月	近年の保育需要の高まりにより、保育所のキャパシティが限界を超えており、入所できない待機児童が435人と、過去最高の値となっている。市では、今回新たに新・保育サービス3ヵ年計画を策定し、その実行に向けて現在準備中です。	改善済	待機児童対策として、新たに策定した町田市保育サービス3ヵ年計画(2012年度～2014年度)に基づき、2013年度予算計上を行いました。計画実施に向け、町田市独自の「20年間期間限定認可保育所」整備等を進めます。
2011	2	保育園	子ども生活部 子育て支援課	保育料については、今年度、来年度をかけて保育料検討委員会を開催し適切な受益者負担となるよう検討します。	2013年4月	保育料については、現在市の方針で保護者負担を21%とし、残りを行政が負担していますが、今後の財政負担は、保育所数の増加とあいまって、ますます増大していくことが見込まれるなかで、受益者の負担割合を見直す必要があります。また、その中で、認証保育所や家庭的保育との利用料・保護者負担額とのバランスも検討し、保護者間の不公平感を解消することも求められています。市では、保育料検討委員会を開催し、その中で多角的な視点から保育料を検討します。	改善済	「町田市保育料等の在り方検討委員会」で出された提言を踏まえ、2013年3月議会で町田市運営費徴収条例の一部改正と、町田市立保育園における特別保育の実施に関する条例の一部改正の上程を行いました。保育料等の改正は、2014年4月からとなりますが、受益者負担の公平性に考慮したものとなっています。
2011	3	保育園	子ども生活部 子育て支援課	2010年度策定した「(仮称)地域子育て相談センターの機能充実と公立保育園運営の最適化」の計画を引き続き進めていきます。	2014年4月	家庭で自ら保育を行い、誰にも相談できない環境での子育てに不安を抱える保護者が増えていて、保育園の①保育②交流(ひろば)③相談の三つの機能のうち、相談機能を強化する必要があります。市では、これに対応するため、マンパワーの集約、公立保育園ベテラン職員の知識及び子ども家庭支援センターの知識の活用、関係機関との連携等を含めた「(仮称)地域子育て相談センターの機能充実と公立保育園運営の最適化」の計画を昨年度策定し、相談機能の強化を進めています。	改善済	2010年度に策定した「(仮称)地域子育て相談センターの機能充実と公立保育園運営の最適化」の計画に基づき、2014年4月より(仮称)地域子育て相談センターを開設、並びに(仮称)マイ保育園事業を実施することを決定しました。
2011	4	ふれあい桜館 (高齢者福祉センター)	いきいき健康部 高齢者福祉課	利用者や地域住民のアンケート調査を実施し、ふれあい館のあり方や必要性を見直します。	2013年3月	仕分け人からの評価の中で、高齢者全体からみてふれあい館利用者が少ないがその理由は何かをあげられました。その実施方法としては、利用者に加え地域住民へのアンケート調査により、未利用者や利用者の意向や行動を分析し、よりよいふれあい館のあり方や必要性を検討いたします。	改善済	アンケート調査を実施し、利用に関する意向や行動等を分析しました。また、例年行っている「指定管理者モニタリング」の際に館のあり方や必要性について協議を行い、特に利用者が希望する行事について未利用者にPRしたことで、利用者増につながりました。
2011	5	ふれあい桜館 (高齢者福祉センター)	いきいき健康部 高齢者福祉課	上記(整理番号4)の調査をもとに、今後のサービスの方向性を策定します。	2013年3月	仕分け人からの評価の中で、時代の変化に応じて、利用者の登録者数を増やすためには何が必要かがあげられました。その実施方法として、「高齢社会総合計画」でのアンケートから高齢化社会全体のニーズや団塊世代のニーズ動向を分析し、高齢者の居場所づくりやサービスのあり方を検討いたします。	改善済	「2012年度～2021年度の町田市高齢者福祉計画」では、「高齢者の生きがい・集う場づくり」が重点施策となっており、その中の主な取組みとして「ふれあい館(高齢者福祉センター)機能の検討」が掲げられています。また、アンケート調査の結果、健康増進に関する要望が多かったため「ストレッチ教室」を立上げたり、「いきいきたいむ」等の事業についてPRしたことにより、館では利用者増につながりました。

2011年度町田市版事業仕分け 事業仕分け結果を踏まえた市の対応状況(2016年5月末時点)

実施年度	整理番号	対象施設	所管課	改善内容	改善時期	改善が必要と考える背景や考え、実施方法	対応状況	改善内容や進捗状況
2011	6	ふれあい桜館 (高齢者福祉センター)	いきいき健康部 高齢者福祉課	見学者を利用者として導きます。	2012年3月	仕分け人からの評価の中で、利用者の登録者数を増やす具体策は何かがあげられました。その実施方法として、広報まちだ掲載の長寿号ルートについて、わかりやすいコメントを入れます。また、町内会、自治会、高齢者支援センター等を通じてPRし、近隣の病院やスーパーなどに毎月の行事表を置くなど、ふれあい館の存在を知っていただき積極的に利用をうながします。更に、上記(整理番号4)の結果を基に、新規利用者を開拓いたします。	改善済	高齢者支援センター連絡会においてふれあい館のパンフレットを配布したり、町内会の定例会においても同様のPRを行いました。さらに、施設見学者にも積極的にPRを行い、2011年度では利用者が171人増加(約11%)しています。
2011	7	ふれあい桜館 (高齢者福祉センター)	いきいき健康部 高齢者福祉課	受益者負担のあり方を検討します。	2013年3月	仕分け人からの評価の中で、高齢者全体から見ると利用者のごくわずかで、一部の市民だけが利益を得ているとの考えから受益者負担を考えるべきでないかがあげられました。ふれあい館は高齢者の健康や生きがいのための居場所であり憩いの場所としての役割もっていますので、有料化により来館者が減らないよう考慮しつつ、「受益者負担の適正化に関する基本方針」に基づき、受益者負担のあり方の検討を開始します。	改善済	①入館料②ヘルストロン(電位治療器)・カラオケ・風呂等の利用料など費用徴収が可能と考えられる項目について、受益者負担の可能性を検討した結果、当面は現状どおり無料とすることとしました。
2011	8	ふれあい桜館 (高齢者福祉センター)	いきいき健康部 高齢者福祉課	他館との連携を深め、より一層のサービス向上を図ります。	2012年3月	仕分け人からの評価の中で、各館にサービスのばらつきはないかがあげられました。その実施方法として、館長会議等で各館ごとのサービスにばらつきがないかを常に確認し、事業についての連携を深めていきます。	改善済	館長会議により、他館との連携を深めるなど、情報共有に努めています。また、スペースの広さをPRしたことで、長寿号利用により他館の利用者も利用しています。
2011	9	青少年施設 ひなた村	子ども生活部 ひなた村	子どもセンター・子どもクラブなど他の児童青少年施設とともに施設のあり方を検討し、ひなた村の位置づけを明確にします。	2011年10月 検討開始	町田市の児童青少年施設全体の将来像を検討する中で、他の子どもセンター・子どもクラブなどの施設との関連で、ひなた村のあり方を全体から見て考える必要がある。	改善済	ひなた村の位置づけを明確にするためには、子どもセンターや子どもクラブ、その他の子ども関連施設も含め、再度それぞれの位置づけを再確認する必要があります。そのためには子ども関連施設に対する全体的な視点が必要となることから、ひなた村単独ではなく、子ども生活部として子ども関連施設の位置づけを再確認し、その中でひなた村の位置づけを明確にしていきます。
2011	10	青少年施設 ひなた村	子ども生活部 ひなた村	市民協働の体制の充実や、民間活力導入を視野に入れた検討を始めます。	2011年10月 開始	2011年10月から、市民協働の体制の充実や平日の日中の利用者増対策等について「ひなた村運営協議会」に諮り、今後の改善意見を集約します。また、安定した経営体制の構築に向け、指定管理者導入や組織改正等を視野に入れた検討もを行い、今後の方向性を確立します。	改善済	2011年10月と2012年2月にひなた村運営協議会を開催。「施設のあり方」、「位置づけ」を明確にするため、青少年施設としてのメリット・デメリット等について意見を出し合うなどの検討を始めました。また、指定管理者制度等について、検討を行い、その結果、安定した運営を維持するため、当面は直営で運営することとなりました。なお、引き続き、経営の最適化について、検討を進めます。

2011年度町田市版事業仕分け 事業仕分け結果を踏まえた市の対応状況(2016年5月末時点)

実施年度	整理番号	対象施設	所管課	改善内容	改善時期	改善が必要と考える背景や考え、実施方法	対応状況	改善内容や進捗状況
2011	11	青少年施設 ひなた村	子ども生活部 ひなた村	平日の日中の利用者増に向け、工作・遊びや「体験活動教室」を実施するとともに、サポートスタッフの育成を図ります。	2012年10月	2012年5月広報等で「遊びの達人」を募集し、サポートスタッフとして10月から予約なしで参加できる工作・遊び等を担当してもらうとともに、科学・アウトドア等分野別にサポートスタッフを育成し、青少年活動を支援するネットワーク作りをします。併せて、学校教育では味わえない「体験活動教室」を開設し、利用しやすくなったひなた村をPRします。	改善済	スタッフ募集の要項を作成しました。2012年10月から実施の新規事業「新チャレンジ教室」のスタッフとして青少年活動をサポートします。また、この事業を通して、ひなた村の事業をサポートする人材の育成を図りました。 なお、新たに実施する平日のプログラムを積極的にPRしたことで、ひなた村の認知度を高めるとともに、平日の利用者の増加に繋がりました。
2011	12	青少年施設 ひなた村	子ども生活部 ひなた村	ひなた村の特長を生かした「自然体験活動教室」等のプログラムメニューを増やします。 併せて、顧客の拡大策を検討します。	2013年4月	・学校にもPRし、ひなた村の魅力である自然のフィールドを生かした「自然体験活動教室」を増やします。併せて町田市観光コンベンション協会との協働事業として炊事場を利用したカレーツアーを実施します。 ・さらなる利用者増に向け、2013年度中に顧客の拡大策を検討します。	改善済	2011年4月から森林インストラクターを採用し、フィールドを活かした「自然体験活動教室」の事業拡大を図り、ひなた村の認知度を高めるとともに、利用者の増加に繋がりました。また、2013年度以降年間5回以上の実施に向け、計画を進めます。
2011	13	青少年施設 ひなた村	子ども生活部 ひなた村	防犯対策を強化しました。	2011年10月 実施	休業日の職員確保増、警備会社によるセキュリティー機能及び夜間警察官による巡回パトロール強化を実施しました。	改善済	2011年10月から休業日の職員体制を複数に増やすとともに、警備会社によるセキュリティー機能及び夜間警察官による巡回パトロール強化を実施し、安全・安心な施設としました。
2011	14	堺市民センター	市民部 堺市民センター	<センター全体> 複合施設としての一体的な管理・運営のあり方について検討します。	2015年3月	現在、センターの管理・運営は直営で行っていますが、複合施設のため、他の同様施設に比べ、人件費・維持管理費などコストが多くかかっています。仕分け結果では、センター内の各施設の業務について、コストを意識した業務展開を検討するべきではないかという指摘を受けました。地区拠点としての市民センターとするために、複合施設としての機能を十分に発揮しつつ、各種事業の連携や施設一体としての管理運営についても進められるよう検討します。 検討にあたっては、建物、設備ともに老朽化が進んでおり、大規模修繕計画を待つ状態ですが、都道拡幅事業の都市計画決定(2013年度予定)により、数年後に建替えまたは移転の可能性があるため、短期と中長期の視点の両面から行います。また、日曜開庁業務については、検証を行い行政窓口のあり方を検証していきます。(2011年度検証開始、2012年度検証終了)	改善済	一体的な運営管理を進めるために、センター内の各施設の協力により、総合管理委託の見直しと光熱水費の削減に取り組みました。成果として節電対策については、2012年度上半期においては東日本大震災前(2010年度)と比較して31%の電気量の削減ができました。中長期的には都道拡幅事業の都市計画決定による影響を見定めながら、対応していきます。 日曜開庁業務に関しては、市民部内の検討は終了しました。今後、全庁的な議論を経て2013年度に方向性を決定します。

2011年度町田市版事業仕分け 事業仕分け結果を踏まえた市の対応状況(2016年5月末時点)

実施年度	整理番号	対象施設	所管課	改善内容	改善時期	改善が必要と考える背景や考え、実施方法	対応状況	改善内容や進捗状況
2011	15	堺市民センター	市民部 堺市民センター	<センター全体> センター館内各施設の職員による定期的な連絡会議を立ち上げ、情報の共有化を図り、サービス拡大と経費削減に活用します。	2011年10月 開始	今まで館内各施設で取得した利用者ニーズは、その施設内だけで活用され、業務展開や方向性についても各々の施設と所属部門だけの情報でした。今後は、館内施設間相互の情報提供や協議を通して、センターに対する市民ニーズと各施設の現状について共通の認識を持ち、サービス拡大と経費削減に活用します。 <実施方法・内容> ・各施設の長及び担当者で構成し、月1回程度開催。 ・利用者からの声や各館の事業・イベントについての情報交換。 ・センターの運営に関する経費、要修理箇所等の情報交換。 ・災害時のセンターについて想定される事象や課題について意見交換。	改善済	2011年10月から、月例でセンター内の各施設職員との合同会議を開催しています。会議の成果として堺市民センターホームページで各施設の紹介をしました。また、施設管理経費については、2012年4～9月と2011年の同時期と比較して4.6%削減しました。
2011	16	堺市民センター	市民部 堺市民センター	<ふれあいけやき館> 受益者負担のあり方を検討します。	2013年3月	「受益者負担の適正化に関する基本方針」に基づき、経費負担の公平性の観点から、ふれあい館事業の一環として受益者負担のあり方を検討していきます。	改善済	①入館料②ヘルストロン(電位治療器)・カラオケ・風呂等の利用料など費用徴収が可能と考えられる項目について、受益者負担の可能性を検討した結果、当面は現状どおり無料とすることとしました。
2011	17	堺市民センター	市民部 堺市民センター	<堺図書館> 現行のおはなし会(小学生以下対象)に加え、乳幼児向けおはなし会を市民ボランティアとともに実施します。	2011年10月 開始	現在おはなし会、展示会等を市民の協力の下に行っていますが、新たに乳幼児向けおはなし会を開始することで、さらに市民参画を進めるとともに、要望の多い乳幼児サービスの充実につなげます。そのために、2011年10月のおはなし会ボランティア養成講座でボランティアを養成します。	改善済	2011年度に養成した乳幼児向けおはなし会ボランティアとともに、2012年5月より月1回乳幼児向けおはなし会を毎月実施しています。5月～9月までの開催数は5回、参加者総数は子ども19名、大人19名の計38名です。乳幼児向けおはなし会の実施は職員1名、市民ボランティア1名、計2名で行っています。
2011	18	堺市民センター	市民部 堺市民センター	<堺図書館> 開館日・開館時間拡大の検討を行います。	2012年度 検討	利用者の利便性を考え、現在館内整理日として休館日になっている毎月第2木曜日の開館の可能性を検討します。 また、木曜日の開館時間について、現行の午前10時～午後5時を午前10時～午後6時への延長を検討します。	改善済	毎月第2木曜日の開館と、木曜日の開館時間延長の可能性を検討した結果、人員・費用等の面から、当面は現状どおりとすることになりました。
2011	19	堺市民センター	市民部 堺市民センター	<ふれあいけやき館> 入浴時間短縮により、予算縮減に努めます。	2011年7月 開始	・入浴時間帯に入浴者不在の時間があつたため、入浴者数動向調査を実施しました。入浴時間の有効利用を図るため、2011年7月から入浴時間を90分短縮しました。 ・使用していない箇所の消灯、適正な空調温度の設定など、節電・節水の徹底を図っています。	改善済	入浴者数動向調査の結果に基づき、2011年7月より入浴時間の短縮を開始し、現在も継続しています。引き続き使用していない箇所の消灯、適正な空調温度の設定など、利用者の皆様にご不便をおかけしないよう効率的に節電、節水を行い、予算縮減に努めます。

2011年度町田市版事業仕分け 事業仕分け結果を踏まえた市の対応状況(2016年5月末時点)

実施年度	整理番号	対象施設	所管課	改善内容	改善時期	改善が必要と考える背景や考え、実施方法	対応状況	改善内容や進捗状況
2011	20	健康福祉会館	いきいき健康部健康課	乳幼児の健診受診者の利便性の向上	2011年10月 検討開始	1歳6か月児の健診は、一部の市民センターで行っています。 さらに地域の施設を活用し、乳幼児健診を実施することにより、市民の利便性の向上と健診時の駐車場不足などに対応していきます。 また、健診の日程や時間の調整により利用者の集中を緩和できるようスケジュールの見直しを検討いたします。	改善済	・2012年4月から健康福祉会館や鶴川分館で実施している3・4ヶ月児の乳児健診や3歳児健診を小山市民センターで実施し、利便性の向上を図りました。小山市民センターでの乳児健診は毎月1回、3歳児健診は2012年10月から翌3月までの間4回実施しますが、2013年度からは乳児健診は毎月1回、3歳児健診は概ね隔月で実施します。 今後は、実施効果及び評価を踏まえ、他の地域へ拡充していきます。 ・健康福祉会館横に新たに駐車場を併設し、利用者の利便性を図ります(2012年9月から工事に入り、2012年内に完成予定です)。
2011	21	健康福祉会館	いきいき健康部健康課	複合施設としての他課との連携強化	2011年度	・各フロアごとに異なる利用対象者や、提供サービスについて、各担当課が施設全体として協力関係を強化することで、有効活用を図ります。 ・来庁者に他の事業を知ってもらい、参加してもらう事は、来庁者のメリットになり、施設の有効活用にもつながります。 ・館内表示等を工夫し、他課の行っている事業を、より分かりやすく紹介していきます。また、他課と情報交換を行い、情報共有に努めます。 ・施設内の他課施設(もっこく館やファミリーサポートセンター)との連携につきまちは、窓口案内など、できる部分については既の実施しておりますが、今後は、事業間での連携を積極的に行っていきます。	改善済	・健康福祉会館のPRとして、案内表示を充実させております。施設周辺の雑木を切り、看板を見やすく改善しました。 ・事業間の連携については、健康課事業において、他の施設の資料を配布し、積極的に事業案内やPRを行い、他事業のPRに努めました。 ・案内表示を充実させたことにより、来庁者の事業への認知度が上がり、施設の有効活用につながりました。 ・町田市ホームページ内にある健康福祉会館の施設案内のページを2011年10月に更改し、会館内の他部署の施設にリンクを設定するなどより分かりやすい情報提供に努めました。 ・従来より、緊急時の来館者等へのAED利用や健康福祉会館での防災訓練など、非常事態時における連携を行っております。
2011	22	健康福祉会館	いきいき健康部健康課	<ふれあいもっこく館> 受益者負担のあり方を検討します。	2013年3月	ふれあいもっこく館については、潜在利用者等のニーズにあったサービスの拡充を図るとともに、受益者負担のあり方の検討を開始いたします。	改善済	・利用者とのコミュニケーションを特に重視し、意見等を聞きながらニーズにあったサービス提供に努めました。 ・入館料やヘルストロン(電位治療器)、カラオケ、風呂等の利用料など費用徴収が可能と考えられる項目について、受益者負担の可能性を検討した結果、当面は現状どおり無料とすることとしました。
2011	23	健康福祉会館	いきいき健康部健康課	施設のPRや館内案内のチラシにより、利用率向上に努めます。	2011年度	講習室の利用率アップや多様な人数に対応できる会議室の貸し出し方法については、健康課の講習事業利用以外を市民に開放する形式を原則としますが、より市民に有効に利用していただくための施設のPRや、館内案内のチラシを作成し、施設の利用を促進します。	改善済	・講習室の利用促進のため、チラシ「講習室の利用について」を作成し、施設の利用を促進しました。 ・年度別の利用件数は、2007年度：687件、2008年度：706件、2009年度：725件、2010年度：766件、2011年度：836件と増加しています。
2011	24	健康福祉会館	いきいき健康部健康課	情報交換会議の開催	2011年度	会館内の光熱水費を健康課が一括で支払いをしているため、他施設でのコスト意識が薄くなる可能性があります。情報交換会議の際には、各施設へ光熱水費の状況をお伝えし、コスト意識の向上に努めます。	改善済	・情報交換会を2013年2月に実施し、光熱水費の節減等について情報を共有をしました。 ・2013年度以降も継続的に、年数回の会議を設定し、光熱水費削減を中心に施設管理について情報交換を行っていきます。

2011年度町田市版事業仕分け 事業仕分け結果を踏まえた市の対応状況(2016年5月末時点)

実施年度	整理番号	対象施設	所管課	改善内容	改善時期	改善が必要と考える背景や考え、実施方法	対応状況	改善内容や進捗状況
2011	25	町田リス園	地域福祉部 障がい福祉課	リス園が周辺の観光施設とのコラボレーションが進められるような支援策を創設します	2011年度	<ul style="list-style-type: none"> 年間10万人以上という集客力を誇るリス園は、町田ぼたん園、町田えびね苑、町田ダリア園など周辺の観光施設や福祉施設を来園者の方にPRする絶好の場といえます。 運営団体が、周辺の観光施設とコラボレーションして事業を実施することにより、薬師池一帯の観光客の誘致につながります。 運営団体が他の福祉施設のPRや製品販売を行うことにより、市民の福祉施設への理解促進と、福祉施設で働く障がい者の意欲向上につながっていきます。 	改善済	<p>下記の実施により周辺施設との一体的なPRを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2010年度から開始した特別割引券【薬師池公園周遊】(ぼたん園・えびね苑・町田リス園の共通割引券)をさらに有効活用し、近隣観光施設との連携を進めるため、近隣観光施設のPRポスターに町田リス園を合わせて掲載する体制を構築しました。 <p>市民の福祉施設への理解促進と、福祉施設で働く障がい者の意欲向上を図るため下記の実施を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内の売店では、従前から障がい者福祉施設が作る「リスクッキー」を販売していますが、さらに雑貨小物を作る福祉施設が製作した「リスグッズ」の販売を新たに開始しました。
2011	26	町田リス園	地域福祉部 障がい福祉課	今後のリス園の運営や施設整備において、市と運営団体との役割分担について、また市が団体へ財政援助をする位置づけについて、それぞれ明確化を図ります	2012年度	<ul style="list-style-type: none"> リス園運営は、団体の事業であるということを前提としつつも、設立の経過から市として様々な面で関与してきました。しかし開園から23年が経ち、この間の社会情勢の変化や、団体が法人格を取得したこと、また今後は施設整備の課題もあることから、市が今後担うべき役割について検討し、明確化する時期にきています。 団体への財政援助の位置づけを明確化させることについては、受益者負担の問題と関連して検討します。 	改善済	<ul style="list-style-type: none"> 2012年度に団体との調整を行い、事務等の役割について見直しを実施しました。さらに、財政援助の位置づけ・役割の明確化と、受益者負担の問題を合わせて検討しており、今後も団体と調整を続けることとしました。
2011	27	町田リス園	地域福祉部 障がい福祉課	観光セクションとの連携策として、町田市観光コンベンション協会(以下「協会」と)との連携・協力体制を、より一層充実させます	2011年度	<ul style="list-style-type: none"> リス園と協会との連携は、イベント(「ひまわりプロジェクト」を9月に実施)の共同開催などがありますが、さらなる充実を図ります。 協会がおこなう施設案内業務(案内ブース、ウェブサイト)において、イベント情報などの話題を市民に提供できるよう、リス園から協会へ随時、情報提供ができる仕組みを整えます。 リス園は、薬師池・七国山地域を周遊する際の「東の玄関口」ですが、入園者に向けた同地域の魅力の発信方法を、協会の協力を得ながら進め、同地域での回遊性向上を目指します。 	改善済	<p>連携・協力体制を構築するため、リス園・観光協会・障がい福祉課で打ち合わせを行い、リス園から協会へ随時、情報提供等ができる体制を構築しました。</p> <p>また、リス園と観光協会の連携により実施した「ひまわりの種収穫とリスへのエサやりツアー(国立市でひまわりの種を収穫し、町田リス園で、リスとのふれあい交流を行うイベント)」を今後も継続事業として行うこととしました。</p> <p>さらに、協会(町田ツーリストギャラリー及び町田駅前案内所)で、町田リス園の案内の配布等を行う体制を構築しました。</p>

2011年度町田市版事業仕分け 事業仕分け結果を踏まえた市の対応状況(2016年5月末時点)

実施年度	整理番号	対象施設	所管課	改善内容	改善時期	改善が必要と考える背景や考え、実施方法	対応状況	改善内容や進捗状況
2011	28	町田リス園	地域福祉部 障がい福祉課	あらゆる世代に向けて、また市内のみならず市外の方へ向けてのPR策の強化を図ります	2011年度から随時着手	・市外の方への新たなPR策として、鶴川駅前公共施設の建設現場に広告看板を設置しました。小田急線の車窓から看板を見ることができます。 ・リス園のイベント情報は、現状は市広報に掲載していますが、市ウェブサイト内キッズページにも掲載していくこととし、メインターゲットである子ども向けのPR強化を図ります。 ・ご高齢の方には「リス園は、都心・都外に行くことなく、身近な地域でお孫さんを連れて気軽に楽しめる」という観点からPRしていきます。そのためのPR策(広告媒体)を今後検討していきます。	改善済	・町田市広報課と、障がい福祉課、およびリス園とで、広報に関する意見交換を実施しました。市広報での掲載方法(スペース、頻度)の改善を図るため、リス園の2012年度の年間スケジュールを、情報提供しました。 ・キッズページの掲載については、構成の検討を行い、2011年3月にリス園へのリンクの追加等、更新を行いました。 ・公開講座実施に当たっては、周辺町内会の回覧板にチラシを挟み、地域住民への情報宣伝に努めました。
2011	29	玉川学園子どもクラブ ころころ児童館	子ども生活部 児童青少年課	施設の有効活用と利用者拡大	2012年度 検討	施設自体は東京都の施設であるため、増築等の大幅な施設の改修は不可能である。ハード面での充実も大切ではあるが、ソフト面の充実こそが何より来館者拡大につながるようになると思われる。そのため、例えば、同じ事業を時間帯を分けて2度実施するなど、利用者を拡大しつつスペースの有効活用ができる事業展開を行う。	改善済	利用者拡大に向け検討を進めていますが、新たなプログラムサービスなどは、指定管理料の増額を伴うものが出てくることも想定されるため、現在検討を進めています。 また、施設の有効活用については、乳幼児向けプログラムを年齢(0~1歳、2・3歳、0~幼児)で細分化するなどし、プログラム数を増やすとともに、利用者が選択しやすい構成にしました。これにより、平日昼間の時間帯を含め、有効に活用されています。
2011	30	玉川学園子どもクラブ ころころ児童館	子ども生活部 児童青少年課	施設間の連携強化	2012年度 実施	子どもセンター・子どもクラブの館長会議・研修会の実施・その他意見交換等を行うことにより、各館の情報を共有し、子どもセンター・子どもクラブ事業の更なるサービス向上を図る。	改善済	定期的に子どもセンター、子どもクラブ(指定管理者)の館長会議を実施し、施設間の連携を図ることとしました。 館長会議の中で、研修会やその他子どもセンター・子どもクラブ事業のサービス向上につながる取組について検討していきます。

2011年度町田市版事業仕分け 事業仕分け結果を踏まえた市の対応状況(2016年5月末時点)

実施年度	整理番号	対象施設	所管課	改善内容	改善時期	改善が必要と考える背景や考え、実施方法	対応状況	改善内容や進捗状況
2011	31	町田市立総合体育館	文化スポーツ振興部 スポーツ振興課	メインアリーナ等の利用料金を改定します。	2017年4月	前回の利用料金の見直しから年数が経過していることから、2011年度中に、一般利用と興行利用の両面から見直し内容を検討します。2012年度に町田市体育施設条例を改正し、周知期間において、2013年4月から利用料金の変更を実施します。	改善済	<p>利用料金の見直しに関して検討を行なった結果、2014年度事業別行政評価シートにおいて、体育館事業の利用者一人あたりのコストが952円となりました。受益者負担の適正化に関する基本方針では、体育館事業の負担区分は「選択的で民間で類似サービスの提供がないもの」に分類され、受益者負担割合は50%とされており、体育館事業の適正な受益者負担額は476円になります。</p> <p>事業別行政評価シートでは、駐車場管理費も含めたコスト算出になっています。体育館利用者1回あたりの駐車場料金の負担額は100円から200円程度になっており、施設利用料金300円と合わせると、現在の負担額は概ね妥当と判断しました。</p> <p>また、興行利用の料金設定に関しては、近隣市の類似施設と比較したところ、当市の料金設定が極端に低く設定されている状況にはなく、こちらも妥当であると判断しました。</p>
2011	32	町田市立総合体育館	文化スポーツ振興部 スポーツ振興課	「みる」スポーツについてのPRを増やし、市民の理解・関心を広げます。総合体育館の優先予約の取扱基準を改定します。	2014年4月	「みる」スポーツの推進にあたり、「みる」スポーツと「する」スポーツの両立について市民の理解を得ながら進めていくべきであるとの指摘・意見を受けています。このため、町田市体育協会等のスポーツ団体と調整するとともに、「みる」スポーツについてのPR・周知を図り、市民参画を拡大し、市民の理解を得ながら、優先予約に関する取扱基準を見直します。	改善済	<p>総合体育館内1Fフロアに、スポーツを「みる」・「する」に関する情報コーナーを設置しPR・周知を実施しています。「みる」スポーツでは総合体育館をホームアリーナとするASVペスカドーラ町田に関する情報、「する」スポーツでは、町田市体育協会や総合体育館のスポーツ情報を発信しています。総合体育館の優先予約の取扱基準については、一部改定をしました。</p> <p>施設利用率を拡大することにより予約枠が増えたため、より市民に利用しやすい環境となりました。</p>
2011	33	町田市立総合体育館	文化スポーツ振興部 スポーツ振興課	学校の体育館を含む学校開放事業を見直します。	2017年4月	総合体育館の利用率が高い状況で、「みる」スポーツを増やすことは、少なからず総合体育館における「する」スポーツを圧迫することになり、課題となっています。現在の学校開放事業を見直し、学校の体育館を抽選や予約により利用できるようにすることで、屋内におけるスポーツの「する」場の確保を図ります。	改善済	<p>「する」スポーツの場を拡大するための、地域スポーツクラブ設立に向けた支援のスキームが整い、現在、複数拠点で支援を実施し、6団体の設立が完了しました。この地域スポーツクラブでは、既存のスポーツ団体はもちろん、普段学校を利用していない地域住民を対象としたスポーツ教室等も実施します。今後は、2020年までに10団体設立することを目指します。</p> <p>※地域スポーツクラブ：地域の方を中心としたスポーツ活動の活性化を担う団体のこと。</p>

2011年度町田市版事業仕分け 事業仕分け結果を踏まえた市の対応状況(2016年5月末時点)

実施年度	整理番号	対象施設	所管課	改善内容	改善時期	改善が必要と考える背景や考え、実施方法	対応状況	改善内容や進捗状況
2011	34	町田市立総合体育館	文化スポーツ振興部 スポーツ振興課	総合体育館で実施される事業への市民参画を拡大します。	2013年4月	運営への市民参画を増やすことで、経費の削減を目指すべきであるとの指摘・意見を受けています。経費の削減になるかは不明ですが、スポーツを「支える」人を増やすために、町田市体育協会と連携して、事業実施に協力していただけるスポーツボランティアの仲介制度の創設を検討します。	改善済	国体推進課において、スポーツ祭東京2013大会ボランティア「まちだサポーターズ」を募集しています。参加いただいたボランティアに国体終了後も引続いて町田のスポーツ推進にご協力いただけるようお願いします。
2011	35	学童保育クラブ	子ども生活部 児童青少年課	特別保育(延長保育)の時間・料金についてプロジェクトにより検証・研究し、より利用しやすい制度に改善します。	2013年3月	2010年7月から実施した特別保育については、一律月額2,000円で事業を実施していますが、2010年11月には利用者アンケートを通して時間・料金の設定について検証・研究の必要性を確認し、また2011年5月に実施された事業仕分けにおいても同様に検証が必要であるとされました。実施後1年間の実績と運営団体からの意見を収集するなど、制度の検証・研究を行い、その成果を踏まえて適切な時間・料金設定を検討し、利用しやすい制度となるよう改善します。	改善済	特別保育の利用料については、2013年4月に条例を改正し、月額2,000円から日額500円、1か月あたりの上限金額を2,000円に変更しました。月単位から日単位に変えたことにより、単発利用がしやすい制度としました。
2011	36	学童保育クラブ	子ども生活部 児童青少年課	利用者負担について見直しを検討します。	2013年3月	負担公平の原則や負担均衡の原則を踏まえ、利用者負担の考え方を明らかにし、利用者負担について検討します。指定管理者制度を導入し民間のノウハウを活かし経費削減を図りつつ、他自治体や社会状況に配慮し必要に応じて検討していきます。	改善済	利用者負担についてはプロジェクトにより検証・研究を進め、特別保育の利用料を見直し、改善を図りました。通常保育の育成料の見直しについても、社会情勢や他自治体の状況を踏まえ、適切に対応していきます。
2011	37	学童保育クラブ	子ども生活部 児童青少年課	通所支援の対象を拡げて実施します。	2011年10月	2010年7月から実施した通所支援事業は、特別支援学校に通学する児童を対象にしています。利用者からの要望を受けて、特に児童の安全を確保する必要があると判断した学校敷地外にある学童保育クラブに通所する身体障害者手帳等の交付を受けている児童についても、2011年10月から同等のサービスを実施する予定です。	改善済	2011年10月から学校敷地外にある学童保育クラブに通所する身体障害者手帳等の交付を受けている児童について、通所支援事業を実施しました。

2011年度町田市版事業仕分け 事業仕分け結果を踏まえた市の対応状況(2016年5月末時点)

実施年度	整理番号	対象施設	所管課	改善内容	改善時期	改善が必要と考える背景や考え、実施方法	対応状況	改善内容や進捗状況
2011	38	町田市立 学校温水プール	文化スポーツ振興部 スポーツ振興課	学校温水プールで、一般開放を継続するかどうかの検討をします。 開放時期や開放曜日について検討します。	2013年4月	学校温水プールは支出が大きく、収入との差が開きすぎているという現状があります。2009年に策定した「町田市スポーツ振興計画」を踏まえ、学校温水プールのあり方を見直すと同時に、週末営業や夏季のみの営業等の運営方法を検討し、光熱水費や委託料等のコストに大幅な改善が見込まれない場合は、当面中止をするなど、新たな利用方法について検討します。	改善済	学校温水プールを週末のみの開放とすることや、利用時間の変更など、運営方法について検討しましたが、水温の維持もしくは再上昇のためのコストを考慮するとコスト削減効果はあまり見込めないことがわかりました。このため学校温水プール開放業務委託の契約方法を見直すこととし、3箇所(町田第一中学校、南中学校、鶴川中学校)を一括で長期継続契約(3年間)にすることにより、委託料のコスト削減を実施しました。
2011	39	町田市立 学校温水プール	文化スポーツ振興部 スポーツ振興課	使用料の改定を行います。	2017年4月	「受益者負担の適正化に関する基本方針」に基づき、学校温水プールについても使用料の見直しを行いません。	改善済	2016年度から施設の開館日数を週6日から週4日に縮小しました。事業の縮小により事業経費を削減します。 一方、使用料の改定については、利用者負担の増加と事業縮小の同時期の実施を避けるため、行わないこととしました。 なお、当事業は、スポーツ推進計画で掲げる「地域におけるスポーツの推進」や「市民スポーツの環境づくり」を担う重要な施設と認識していますが、事業経費の面で課題があることも事実です。 今後、より多くの方に利用されるよう、事業の進め方について抜本的な見直しを行います。
2011	40	町田市立 学校温水プール	文化スポーツ振興部 スポーツ振興課	利用者アンケートを実施し、その結果よりサービスの見直しを行いません。 また、PR方法を検討します。	2012年9月	利用者のニーズを把握するため、プール利用者にアンケートを取り、その意見を参考にしてサービス向上を実施します。 また、学校温水プールが一般開放されていることがあまり市民に知られていないため、アンケートの結果を元にPR方法を検討します。	改善済	学校温水プール利用者に対して、アンケートを実施しました。アンケート結果を参考に、サービス向上策として無料水泳教室を開催しました。また、学校温水プールについて、より多くの方に知っていただくため、ホームページに掲載する情報を見直しました。今後もより情報提供の充実を図るための方法を検討していきます。
2011	41	まちだ中央公民館	生涯学習部公民館	若年層を含めた幅広い年齢層の潜在利用者のニーズに対応します。	2011年10月 検討開始	潜在利用者等のニーズを調査・研究し、幅広い年齢層の利用を促進するために、若年層を対象とした事業の見直しを行います。 庁内外の各種機関との連携を図り、情報収集を行うことにより、若年層向けの新たな魅力ある企画を検討・実施していきます。	改善済	幅広い年齢層の利用を促進するために、複数の大学と生涯学習センターとしてどのような取り組みをすべきかについて検討し、その取り組みの一つとして、2012年度、複数の大学等が関わる、ファッションをテーマに若年層の交流を目的としたイベントを開催します。
2011	42	まちだ中央公民館	生涯学習部公民館	幅広い年齢層に受け入れられる名称を検討します。	2011年10月 検討開始	生涯学習センターとしての新たな機能を担うことをきっかけとして、幅広い世代に親んでもらい、使いやすい施設にふさわしい名称を検討します。	改善済	生涯学習センター運営協議会で、施設名称について検討を行い、2012年4月に町田市生涯学習センターが開設されたばかりであり、名称変更や愛称を設定する前に、名称の周知を徹底すべきとの意見がありました。これをふまえて、生涯学習センターという名称に親しみをもってもらえるよう、施設名称及び実施事業のPRを強化します。

2011年度町田市版事業仕分け 事業仕分け結果を踏まえた市の対応状況(2016年5月末時点)

実施年度	整理番号	対象施設	所管課	改善内容	改善時期	改善が必要と考える背景や考え、実施方法	対応状況	改善内容や進捗状況
2011	43	まちだ中央公民館	生涯学習部公民館	公民館と市民大学の事業を総合化し、新たな生涯学習拠点として、町田市生涯学習センターを設置します。	2012年4月	生涯学習情報の集約・発信機能を充実させることにより、町田市行政全体や庁外の情報が得やすくなります。 全体計画を立案し、関係機関との総合調整を行うことにより、市民に生涯学習を体系的に提供できるようになります。 各種の専門機関と連携することで、多様化した学習ニーズに対応できるようにします。 課題解決に向けた相談機能を充実させます。	改善済	2012年4月に町田市生涯学習センターを設置し、生涯学習情報の集約・発信機能、関係機関との総合調整機能、学習相談機能を充実させました。生涯学習センター内の情報資料コーナーについては学習情報量の拡大・情報のデータベース化やチラシ・ポスター等を学習分野ごとに掲示し、利用者が容易に情報を得ることができるよう工夫しました。学習相談については相談内容を蓄積・統計化し、学習情報のデータベースなどを活用しながら、相談対応の質を向上させました。
2011	44	まちだ中央公民館	生涯学習部公民館	他機関(大学・民間企業等)との連携を深めます。	2013年3月	多様化した市民ニーズに対応するためには、生涯学習部内での事業の他、「相模原・町田大学地域コンソーシアム」を始めとする大学・民間企業等や庁内の多様な施設・人・情報などの資源を有効活用することが必要です。また、連携先を募集する仕組みを作り、連携事業を推進します。	改善済	2012年度においては共催事業を8件実施し、庁内各部署や他機関(大学・民間企業)との連携を深めました。また、相模原・町田大学地域コンソーシアムを通じ、大学や民間企業と連携する体制を整え、連携事業8件を実施しました。
2011	45	まちだ中央公民館	生涯学習部公民館	学習相談機能を強化するため、生涯学習や社会教育についての専門性を持った職員を配置します。	2012年3月	現在、相談業務に携わる社会教育主事の資格を有する職員の不足が課題になっており、市民の学習相談に対応できる仕組みを構築することが求められています。生涯学習センター設置に向け、資格を有する職員を養成し配置します。	改善済	2011年度は社会教育主事講習を2名受講しました。2012年度以降についても学習相談業務の拡充のため、資格を有する職員を養成する予定です。
2011	46	まちだ中央公民館	生涯学習部公民館	施設使用料について有料化による施設利用の適正化を図り、円滑に運営します。	2011年8月から実施	まちだ中央公民館の施設使用料については、従来、社会教育団体の利用を原則無料としておりましたが、公民館利用者と同種の施設利用者、非利用者との間の負担の公平性を確保するために、2011年8月から有料化を実施しました。	改善済	2011年4月1日から広報、館内掲示、ホームページなどで利用者にお知らせをしながら、2011年8月から有料化を実施しました。8月の利用率は有料化直後のため大きく低下しましたが、多くの方々にご利用いただくため「5人未満の団体・個人の方」もご利用になれるように利用要件を緩和しました。この結果、利用率は回復傾向にあります。